

『営業の魔法』と『お母さんの請求書』

つい先日、たまたま観たNHKの朝のニュースで小学校の道徳の授業について取り上げられていました。題材は『お母さんの請求書』ストーリーは以下の内容です。

たかしくんはある日曜日の夜、お母さんに1枚の紙を渡しました。

請求書

お手伝い代 200 円
お留守番代 100 円
お掃除代 100 円
買い物代 100 円
合計 500 円

お母さんは何も言わず笑ってその紙を見ているだけでした。翌朝、たかしくんが起きると机の上 500 円と1枚の紙が置いてありました。

請求書

病気になった看病代 0 円
食事代 0 円
おやつ代 0 円
洋服やくつ代 0 円
お世話代 0 円
部屋代 0 円
合計 0 円

そう、紙はお母さんからの請求書だったのです。それを見たたかしくんは、すぐにお母さんのもとへ行き、ぽろぽろと涙をこぼしながら「この 500 円足りないよ」とお金を返すのでした。

『営業の魔法』の内容と通じる、直感的にそう感じました。もし紙谷さんという営業の心構えを説いた方が実在するならば是非伝えたいと思ったほどです。まるで朝のレッスンにに向う小笠原さんのように、その日の通勤は何だかとても清々しい気分でした。

紙谷さんが語っていた「決して『売る』ことが営業の目的ではない。お客様の良き相談相手になり共に問題解決に努めることが重要だ」、ここが正しく『お母さんの請求書』と通じる部分だと思えます。

まず、たかしくんはどうしてお母さんにお小遣いを請求したのでしょうか。まだ小学生ですし単純に頑張ったご褒美がほしかったからかもしれません。しかし、お手伝いやお買い物の目的とはなんのでしょうか。お母さんがどうしてまだ幼いたかしくんにそのようなことを頼むのでしょうか。たかしくんの成長のためだと私は考えます。お母さんはたかしくんを雇っているわけではありません。大事な大事な愛すべき息子です。お母さんはそんなたかしくんに更なる心の成長をしてほしくて自らも請求書を渡したのでしょうか。

一方、お母さんの請求書はどうして全て 0 円なのでしょうか。やはり、たかしくんは大事な息子であり洗濯や食事の用意をすることは「たかしくんのため」だからです。たかしくんが綺麗な服を着てお腹いっぱいご飯を食べて元気に暮らしていけるよう、お母さんが行っていることです。

ぴったりと紙谷さんの言葉に充てはまる内容だと思えます。売ること、お金のために働くのではなく、大事な人のために働くことが重要だと。そうすることにより人間力が養われ、誰かに必要とされる人（本のラストで小笠原さんが見知らぬ営業マン 2 人に声をかけられたように）になれるのだと。

ニュースを観たあとの通勤電車の中で思いました。今まで幾度となくブックキングや座談会、社長からのお言葉でうかがっていた「働くことの意味」、理解したつもりでいたけれど本質を解っていたのかどうか。ゲストのために何かしたい、私は店長や副店長にも何度もそう話していましたが、心の底からそう思って仕事をしていたのかと自らに問いかけました。でも、混んでいる電車の中で吊革に掴まって考えているだけでは答えは出ませんでした。きっと、仕事をしていく中でしかその答えは導きだせないと思えます。

小笠原さんが紙谷さんに出会ったように私も誰かに出会えたら、そんな図々しいことは思いません。紙谷さんの人に出会うくらいのご縁を自分で引き寄せられるように、まずは改めて背筋を伸ばします。もしかしたらたかしくんのように恥ずかしい思いをすることもあるかもしれません。けれど、たかしくんも涙をこぼしながらしっかり 500 円をお母さんに返したように、例え何が起きてもしっかりそこに学んでいきたいと思えます。